



イルカ通信

隔月 1 回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

2012年10月1日 NO.50

一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)



「三世代のイルカの話」

個体識別番号 # 19は、イルカ調査隊が結成された2003年から父島周辺で、毎年確認され続けているメスのイルカです。背ビレの欠けかたが識別のポイントです。



#19の背ビレ (2012年8月16日撮影)

親は # 20であることがわかっており、# 19には兄弟がいることも確認されています。2006年7月ごろ、親離れしたことが確認され、他の若い個体と一緒に確認されることが多くなりました。そして2012年8月9日に新生児を連れているところを調査隊が発見しました。



新生児を連れて泳ぐ#19 (2012年8月16日撮影)

20からすれば孫イルカの誕生ですね。OWAではこれからこの親子に注目していきたいと思っています。現在は赤ちゃんイルカの発見が多い時期となっているので、親子に配慮したウォッチングをお願いします。

「イルカの声を調べる」

ドルフィンスイムの経験のある方は、水中でイルカの声聞いたことがあるかもしれません。イルカの鳴音は大きく分けて、「クリックス」と「ホイッスル」の2つが知られていますが、今回は「ホイッスル」についてお話したいと思います。

イルカは、ホイッスルと呼ばれる口笛のような高く長い音を使って、仲間同士でコミュニケーションをとっていると考えられています。

父島の沿岸付近に生息しているミナミハンドウイルカやハシナガイルカもこのホイッスル音を発します。よって、それぞれのホイッスル音の特性が分かれば、鳴き声から種類を見分けられるかもしれません。そこでOWAでは帝京科学大学と共同で、専用の水中マイクでイルカのホイッスル音を録音し、その特性を明らかにしようとしています。録音に使用する水中マイクは、大きさが20センチほどの円柱状の形をしていて、最長で200時間録音することができます。



イルカの声を録音する装置

イルカを発見したところで、この水中マイクを沈め、それぞれのホイッスル音を録音します。録音した鳴き声をパソコンで解析すれば、その特性が明らかになると考えています。今回の調査では実施できませんが、このマイクを海中に沈めておけば、沈めた場所に、いつイルカがやって来たかを知ることもできます。

鳴き声から明らかになることも沢山あるので、これからの調査結果をお楽しみに。



一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会
〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町 Tel 04998-2-3215

URL <http://www.ogasawara.or.jp/owa>
e-mail owa@h6.dion.ne.jp



イルカ通信は OWA のホームページ (<http://www.owa1989.com/owa/dolphin>) からダウンロードできます (無料)